

鹿児島日英協会 ニュースレター
**The Japan British Society of
 Kagoshima Newsletter**

第 14 号

No.14 March 2021

会長あいさつ ～ニュースレター第14号発行に寄せて～

鹿児島日英協会 会長 島津 公保

日頃から、当協会の皆様には、会の運営等にご協力いただいておりますこと厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症が蔓延する中、会員の皆様は如何お過ごしでしょうか。このコロナ禍において、世界中の人々が、これまでの生活様式を大きく変えることを余儀なくされました。

我が国における感染の状況は、第三波を乗り越えましたが、英国においては、一桁違う様相にあり、変異種が広がって、更に先行きが見えにくい状況にあります。このような中、各国で、ワクチン接種が始まりました。感染の拡大が収まってくれることを願うばかりです。

また、英国における EU 離脱交渉は、交渉期限の昨年末に妥結して、表向きには、混乱無く離脱が成立しました。一方、我が国と英国とは、早々に、日英 EPA (包括的経済連携協定) が成立し、今年から新たな両国の連携が始まっています。これらを通して、一層の日英の交流発展につながることを期待しております。

昨年の私どもの活動もコロナ禍の影響により、かなり限定的なものとなりましたが、第 4 回エッセイコンテスト、第 2 回フォトコンテストと共に、東郷平八郎ゆかりの銀杏の里帰り植樹式を無事に実施することが出来ました。

特に、この銀杏の苗木の植樹式には、コロナ禍ではありましたが、鹿児島市の森市長、鹿児島県 PR 観光戦略部の木場部長をお迎えすると共に、ポール・マデン駐日英国大使からの日英友好の更なる期待を込めた温かいメッセージをいただき、厳かに式典を催行することが出来ました。植樹したのは小さな銀杏の苗ではありますが、この苗には、多くの日英の関係者の心がこもっており、これから、日英の友好、特に鹿児島とウェールズ州との友好のシンボルとして、大きく育つことを祈念しています。

コロナ禍は、我々人類が地球という自然界の中で限度を超えて生きていることに対する警鐘ではないかともいわれます。そのためにも、我々は謙虚に地球環境と共生をしながら生きることが求められているのではないでしょうか。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

目次

- ① 令和2年度 第29回鹿児島日英協会総会ご報告 P.2
- 令和2年度 第1回理事会ご報告 P.2
- 理事改選・青年部新部長のご紹介 P.2
- エッセイコンテスト・フォトコンテスト表彰式ご報告 P.3
- ② 第2回鹿児島とイギリスフォトコンテスト受賞作品ご紹介 P.3
- ③ 第4回エッセイコンテスト受賞作品ご紹介 P.5-6
- ④ 東郷平八郎ゆかりの銀杏の木里帰り植樹式のご報告 P.6-7
- ⑤ 今後のイベント予定 P.7
- ⑥ イギリスひとくちメモ P.8

① 令和2年度 第29回 鹿児島日英協会総会のご報告

日時：令和2年10月25日（日）
会場：ホテルレクストン鹿児島

先日令和元年度第29回鹿児島日英協会総会が開催され、当協会の令和元年度（令和元年10月1日～令和2年9月30日）の事業内容確認と新規プロジェクトにおける期末報告・決算報告をいたしました。



新体制	令和2年10月
会長	島津 公保
副会長	上山 達典
副会長	古木 圭介*
理事	酒瀬川 純行
理事	永田 行博*
理事	鎌田 善政
理事	吉村 千鶴子
理事	松尾 千歳
理事	中野 寿康
理事	村田 長芳
理事	岩下 雅子
理事	鹿島 友義
理事	岩元 修士
理事	中村 博之
理事	東 清三郎
*理事	田中 京子
*理事	吉満 庄司
*理事	喜平 ユカリ
理事/事務局長	狩所 貴久
*理事	Daniel Phillips（青年部部長）
*理事	神田 浩之（青年部副会長）
*理事	久保 瑛帆（青年部副会長）
監事	塩倉 宏

*印は新規

理事改選のご報告 （右表が新体制の理事一覧です。）

本年度は2年の理事満期にあたり改選が行われました。長年、副会長を務めた永田行博氏が退任し理事となり、新たに副会長に古木圭介氏が就任しました。永田氏には、長期にわたり副会長をお務めいただきましたことに深く感謝申し上げます。

また、狩所貴久氏が青年部長と事務局長を兼務していましたが、事務局長に専念することとなり、新たにDaniel Phillips氏が青年部長に就任しました。

青年部長あいさつ （新青年部長Daniel Phillips氏：右写真）



JBSKとJBSKYDの尊敬するメンバーの皆さん、こんにちは。自己紹介をさせていただきます。私の名前はダニエルフィリップスです。私は鹿児島日英協会の会員で約4年になりますが、昨年私が青年部長になることを依頼されました。当初は、そのような役職に就く資格がないと思っていましたし、とても驚きました。少し躊躇していましたが、ありがたく受け入れることにしました。

私は、ミッドランズの北にあるスタッフォードシャー郡の北にあるストークオン Trent（人口約25万人）という小さな都市で生まれました。イレブンプラス試験に合格した後、ニューカッスルアンダーライムスクールに通うことができて幸運でした。高校を卒業した後、私はレスター大学で歴史の学士号を取得しました。

それから私はロンドンに移り、英語教師として訓練し、グリーンパークのそばの日本大使館の近くにあるインターナショナルハウスでCELTA資格を取得しました。その後、故郷に戻り、教育経験を積みました。私はストークカレッジのESL部門で働き、世界中から多くの留学生、移民と難民を教えることが出来て、素晴らしい時間を過ごしました。この時、私は日本での仕事を探しました。日本語の勉強も始めました。

私はJETプログラムに応募してALTになり、幸運にも鹿児島市で働くために文部科学省に選ばれました。鹿児島に来る前、薩英戦争のことはあまり知らなかったですが、歴史が好きなのでより詳しく知るようになりました。イギリスと鹿児島の歴史の共有は非常に魅力的だと感じています。

2005年から2010年の間に、私は鹿児島の多くの若い学生に指導をし、もっと世界的な考え方をさせようとしていました。もっと海外に目を向けられるようになったと思います。2010年以来、天文館にある英会話スクールで働き、パナソニック、貿易会社や天文館のレストランなどの企業のためにいくつかのフリーランスの翻訳の仕事をしました。

余暇には、アクティブな活動することを楽しんでます。私の趣味は、ランニング、フットサル、ハイキング、キャンプ、ガーデニングです。個人としてのお気に入りの成果のひとつは、2017年に鹿児島マラソンを2時間37分47秒で32位に終えたことです。チームの一員として、優勝した駅伝チームの一員であることも誇りに思います。加治木駅伝は3年連続。スポーツをすることで、日本人だけでなく、世界中の多くの人と友達になることができました。

コロナパンデミックによって引き起こされている現在の困難にもかかわらず、私は今年、鹿児島と英国の間のより良い理解と友情を促進することを楽しみにしています。

エッセイコンテスト・フォトコンテスト表彰式のご報告

理事会終了後、エッセイコンテスト表彰式とフォトコンテスト表彰式を行いました。写真家の中小路先生や永田前副会長ならびに酒瀬川理事から講評を頂き、和気あいあいとした雰囲気の中滞りなく行われました。

○ 鹿児島日英協会主催 第4回 エッセイコンテスト受賞者

〈英語の部〉・最優秀賞：大住 有紀 様 ・優秀賞：上村 日詩 様

・奨励賞：森 晴子 様 / 立園 茉倫 様

〈日本語の部〉・最優秀賞：岩元 晟洋 様 ・優秀賞：加覧 幸那 様

・奨励賞：西 夏音 様 / 原田 夏実 様 / 大重 由佳 様 / 中村 陽太 様 / 鎌田 彩里 様

○ 鹿児島日英協会 青年部主催 第2回 鹿児島とイギリス フォトコンテスト受賞者

・最優秀賞：中村 美樹 様 ・優秀賞：中向 裕一 様 ・入賞：肥後 昭 様

＝表彰式の様子＝



② 鹿児島日英協会青年部主催 第2回 鹿児島とイギリス フォトコンテスト 受賞作品のご紹介（審査・講評：霧島市在住写真家 中小路靖先生 左上表彰式写真一番右）



←←←最優秀賞 中村 美樹様 作 「浜辺のティータイム」

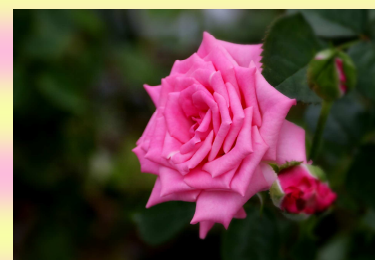
↓ 優秀賞 中向 裕一様 作「幻想的な夜」 ↓



入賞 →

肥後 昭様 作

「クイーンエリザベス」



英語の部 最優秀賞 受賞作品

鹿児島純心女子短期大学 大住 有紀 さん 作 “Shout To Stop Global Warming”

Save the future! Save the climate! When I walk around in the city center, lots of young people make a long line and raise their voices against global warming.

I lived in York in the UK for half a year. I stayed with my host family and went to York St. John University to study English. York is located in the middle of Yorkshire and it has a long history. Thus, there are still some old streets and houses as if I got into the world of Harry Potter. After school, I walked around the city center with my friends, and at the same time, I enjoyed the atmosphere. Suddenly, I heard many people yelling some-thing. The voices came closer and closer, and they caught my eye. Led by a young boy, loads of young people formed a line and protested against global warming. When I saw them at first, I was confused because I had not seen this kind of demonstration before. In other words, I thought that the movement was not a good one and they just reveled. However, when I looked more closely, I realized that they were just telling their thinking and made an effort to appeal to the government to control Global Warming. Recently, Global Warming is a serious problem and the effects of it are appearing all over the world. For instance, rising sea level, changing climate and so forth. Every one feels these effects and is afraid of them, so these people were protesting for us and rousing people to cooperate to save our planet.

However, in Japan, I have never seen a movement like this and nobody invites us to change our life style to protect the earth from global warming. Therefore, when I live in Japan, I don't feel any responsibility for global warming, which is progressing due to our actions, and I consumed lots of products which made lots of waste. In fact, Japan began to charge for plastic bags at the checkout from July, 2020. Nevertheless, I often see customers who do not bring their own eco bags and who buy plastic bags. Also, some shops have not started to impose the fee for plastic bags and give us them for free even now. On the contrary, when I stayed in the UK and went to a supermarket, most people brought their own bags. Also, several eco shopping bags were sold behind the cashiers. As well, wrapping of vegetables and fruits were sold separately so consumers can buy as much as they want and they put them into paper pouches. Even if Japan began to charge for plastic bags, the other countermeasures are a little bit lenient.

I think this problem has something to do with national characteristics. Japanese seem to

value cleanliness and are polite compared to people in other countries. So Japanese wrapping is very thorough. Also, Japanese people hesitate to make a statement to society because they don't want to offend other people. It is a great feature but this prevents us from making progress on this issue. By contrast, British people have an ability to tell their opinion to the world. So, they can promote their agenda and seek to change the environment.

Through this studying abroad experience, of course I was able to study English and interact with other nationality students, but also I could see the overseas social situation. Especially at this time, I consider that we should do brave things to save our planet and hand over a better future to the next generation.

Through this I found the good and bad points of both countries. I don't want to rank which countries are best. I just want to tell you the social situation and what I felt through the experiences. If there is a chance, I would like to learn more about social issues and accept and spread the good points of each country, which we can use as references to make a bright future.

日本語の部 優秀賞受賞作品

甲南高校 岩元 晟洋 さん 作 「光と影」

ビッグベン、ロールス・ロイス、マッキントッシュ、ビートルズなど、挙げればきりが無いのだが、イギリスの洗練された街並み、世界的なブランド・メーカー、多様なブリティッシュ音楽などは、幼少の頃より私の心を駆り立てた。イギリスの文化に触れるたびにイギリスへの憧れは強まり、いつか行ってみたいと思うようになっていった。しかし、ある本との出会いによって今までとは異なる憧れを抱くようになり、イギリスで本当にやりたいことを見つけることができた。

その本とは最近話題のブレイディみかこ著『ぼくはイエローでホワイトでちょっとブルー』である。この本は、著者の息子や彼の友人たちとの中学校生活を書いたものである。

この本のことを少し詳しく説明すると、イギリスの名門カトリック小学校に通う息子が、元底辺中学校に入学し、そこで多くの経験（ジェンダーや貧困、差別など）をしながら成長していくという内容である。私はこの本から、移民大国イギリスが抱える貧富の差や、差別の問題などを学ぶと同時に私は今までイギリスのいわば光の部分しか見ていなかったことに気づかされた。地区の分断が進み、特定の地区に住む人たちを差別し、その地区の子どもたちは学校でいじめられていること、お金がなく、制服や昼食を変えない子どもたちがいることなど多くの問題がイギリスの公立学校には山積している。なかでも印象的だったことは、学校の先生がお金のない生徒に、自費で必要なものを買ってあげているということだ。教育をする立場の人たちが、生徒の衣食住までも面倒を見なければならない

という現状が先進国イギリスにあることは私にとって非常に衝撃的な現実であった。光があるとことには、必ず影があるという諺があるように、美しさの裏には、差別、貧困に苦しむ人たちが大勢いる。この本を読み終えたとき、私のイギリスへの印象はまったく異なるものになっていた。

この本との出会いによってイギリスという国を決して嫌いになったわけではない。むしろ本当にイギリスでやってみたいことを私は見つけることができた。今までは、単純に「イギリスの文化に触れたい、体験したい」という漠然としたものであった。しかしこのイギリスの現状を知ったとき、「イギリスの公立の学校生活を体験してみたい」と強く思った。有名な大学やパブリックスクールではなく普通の公立の学校生活を体験することにより私たちが見なければならない現実を体感することができるからである。私は、以前より教育という学問に興味があった。これから取り組む、高校での課題研究として自主性を重要視した教育に関する研究をしようと考えていたが、それ以前に解決しなければならない問題があると、この現状を知ったことにより考えるようになった。日本と同じ先進国としての立場を持つイギリスの課題について考えることは、日本においてもとても有意義なことだと考えている。

今は、もともとイギリスに対して持っていた憧れとは異なる憧れを持っている。その異なる憧れとは、イギリスという異国の地において実際にイギリスの現状を体感し、すべての子どもたちが整備された環境下において楽しく学びを行える社会を実現することである。イギリスで多くの経験、学びをして、私の憧れが実際に現実となるように最大限の努力をしていきたい。

鹿児島日英協会主催 東郷平八郎ゆかりの銀杏の木里帰り植樹式ご報告

2019年2月から進めてまいりました「東郷平八郎ゆかりの銀杏の木里帰り」プロジェクトの報告です。2020年11月22日（日）10:00 a.m. より鹿児島市の多賀山公園にて植樹式を執り行いました。現地ウェールズ発起チームベットさんジェームズさんはじめ、ポール・マデン駐日英国大使、産経新聞論説委員岡部様、坂井様、スウォンジー在住松井様、広島県呉市役所、東郷神社、鹿児島県国際交流課、鹿児島市国際交流課、鹿児島市公園緑化課、(有)前田工芸、(株)フタバ、(株)島津興業林業部の皆様のご協力を1年半以上もの長きにわたり賜りまして心より感謝申し上げます。また、当日は天気・気候にも恵まれ素晴らしい式典となりました。

銘板の除幕式の様子



植樹セレモニーの様子





会場の多賀山公園



銘板



銀杏の木里帰り植樹式を終えての様子（右写真） 左から島津協会会長・上山協会副会長・ウェールズ発起チーム代表坂井様・狩所協会事務局長・産経新聞論説委員岡部様・志学館大学名誉教授酒瀬川協合理事・森前鹿児島市長・Daniel Phillips 協会青年部長・鹿児島県PR・観光戦略部木場部長

東郷平八郎ゆかりの銀杏の木里帰り植樹式 寄付者・団体のご紹介

2021年2月末現在での寄付状況です。

- ・シマツ トシコ 様
- ・山形屋 様
- ・イシバシ チアキ 様
- ・上山病院 様
- ・シマツ キミヤス 様
- ・デュークエステート 様
- ・カシマ トモヨシ 様
- ・シオクラ ヒロシ 様
- ・サカセガワ スミユキ 様

*寄付をいただきました皆様、誠にありがとうございます。東郷銀杏の運営並びに今後の維持管理費及び、今後予定企画中の関連式典などにおきまして、運用させていただきます。なお上記寄付者のご紹介は寄付を頂戴した順に掲載しております。加えて、寄付金につきましては現在も受付中です。寄付申請につきましては、1口1,000円から事務局で承ります。お気軽にご相談ください。

⑤ 今後のイベント予定 (コロナウイルス拡大防止のため、中止・延期となる事業があります。)

- | | | |
|----------|----------------------------|---------------------|
| 1. 青年部主催 | 第3回 Pub Quiz | 感染状況を考慮し延期、開催時期未定 |
| 2. 協会主催 | 令和3年度 鹿児島日英協会総会・講演会・第1回理事会 | 2021年10月30日(土) 予定 |
| 3. 協会主催 | 第5回エッセイコンテスト | 別紙参照 |
| 4. 青年部主催 | 第3回フォトコンテスト | 別紙参照 |
| 5. 協会後援 | マルメンカルテットコンサート | 2021年6月30日(水) 県民ホール |
| 6. 協会主催 | イギリス旅行ツアー(仮) | 感染状況を考慮し延期、実施時期未定 |

※コロナ禍ではありますが感染状況をみながら可能なイベントを考えたいと思います。ご提案、ご要望をお待ちしております。

⑥ イギリスひとくちメモ

‘Touch wood’ というお^{まじな}呪い

イギリスにも様々な迷信 (superstitions) があるが、その一つに ‘touch wood’ という面白い風習がある。

今は亡き友人で農夫の John Ling は自分や家族の自慢話や好調な家業の話をした後には必ず “Touch wood!” と言って、身近な木製の椅子、テーブル、柱などに触った。(周りに木製のものが無い時には、代わりに自分の頭をユーモラスに触ったが。) 幸運が途切れたり、災難が降りかかることのないよう祈る禁呪 (まじない) だという。同じ言動は幾人もの友人や知人の中にも何度も見てきた。

この習慣、起源には諸説ある。一説には木がキリストが磔刑になった聖なる樹木の十字架に繋がり、応報天罰の女神ネメシス (Nemesis) の妬みや怒りを和らげ、また遠ざけてくれるからだというが、キリスト教以前の異教徒たち (pagans) が木に手を触れ、そこに宿る精霊に幸運の到来を願ったり助けを求めた「樹木崇拜」 (tree worship) の名残だという説もある。また、アイルランドではそれは幸運をくれた妖精レプレカン (Leprechaun) への感謝の印だともいう。

利便と科学を求める余り、謎と不思議への畏れや、遊ぶ心の薄れゆく昨今。豊かな連想と想像で心を満たしてくれる迷信とも親しく交わりたいものだ。

(文責：鹿児島日英協会理事・志學館大学名誉教授 酒瀬川 純行)



広大な農地の中の居宅で寛ぐ “Touch wood.” をよく口にした友人 John

★鹿児島日英協会 URL :

<http://jbsk.jp/>



★鹿児島日英協会青年部 Facebook :

Japan British Society of
Kagoshima Youth Division



【鹿児島日英協会所在地】

〒892-0871

鹿児島市吉野町9700-1 (株式会社島津興業内)

TEL : 099-247-7000 (代表)

FAX : 099-247-9539

Email : jbskagoshima@yahoo.co.jp